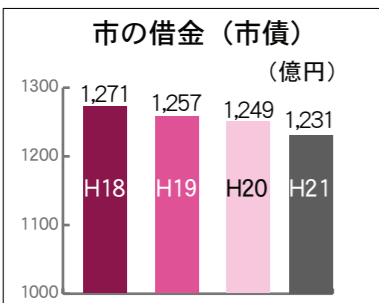
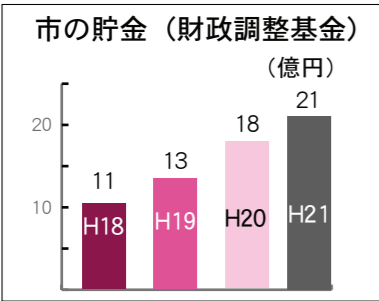
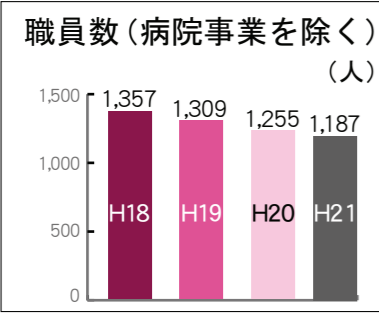


行財政改革の取り組みによる効果



地域でゴミ分別の研修(松山地域)



食育の推進(岩出山保育所の笹巻き作り)

**検証6**  
自然と共生し環境に配慮したまちづくり  
時代が求める新たな生活様式  
豊かな自然や大切な資源を維持し、次世代へ引き継ぐためにさまざまな取り組みが行われています。  
田尻地域の「蕪栗沼・周辺水田」に続き本市で二つ目のラムサール条約湿地に「化女沼」が登録されました。  
このことは、本市の取り組んでいる自然環境との共生と経済の融合を図る地域づくりが世界に認められた一つの表れです。  
動植物から生まれた再生可能な有機性資源を有効活用する「バイオマスタウン構想」は、市民や関連事業者、有識者で組織するバイオマス利活

用推進委員会が設置され、資源循環型社会の構築に向けて動き出しました。  
**行財政改革**  
米国の金融危機に端を発した世界的な経済不況など、本市の財政状況も、景気悪化による大幅な税収の落ち込みにより、地方交付税の交付額は不透明な状況にあります。厳しい状況の中でも、「宝の都(くに)・大崎」の実現を確実に実行していくためには、行政改革を進め、財政の健全化を図らなくてはなりません。  
定員適正化計画、行政評価、市税徴収率の向上などの集中改革プランを実施することで、約五十三億円の財政効果も上げています。

**検証3**  
地域の個性をいかし豊かな心を育むまちづくり  
教育環境の整備を図る  
未来を担う子どもたちの教育環境を充実させる取り組みがなされています。  
生徒の個性に応じた指導が行えるように、すべての中学校に教員補助員を配置しました。

みづくりを進めています。給食における地場産食材の利用率も徐々に伸びており、食育にも力が入れています。  
**検証4**  
活力あふれる産業のまち  
景気悪化の中でも積極的に  
基幹産業の振興と産業界との連携、新たな産業を創造させる動きが加速してきました。  
平成二十年の大型観光キャンペーン「仙台・宮城デスティネーション」の実施と、それに続くポストDの展開の中で、観光資源の発掘・整備、ボランティアガイドなどの取り組み、大崎御膳や隠れメニュートといった食の魅力のアピールするなど、積極的な取り組みが誘客に功を奏しています。  
農業では、地域農業の核となる担い手の育成や経営基盤の強化を進め、農業生産基盤や農村生活環境の整備を推進することにより、地域農業の担い手である認定農業者数が目標値を上回る千八百三十三団体(人)になりました。また、農業生産基盤整備の進捗率は農振農用地区の六十四・四%となっています。  
環境に配慮した農産物生産に取り組んでいる生産者に対する販売支援として、こだわ

教育施設の耐震補強は、これまで十六の小中学校で実施されており、平成二十三年完了に向けて最優先に進められています。  
本市の地域活性化と宮城大学における教育研究活動の振興を図ることを目的に、宮城大学との連携協定を結びました。協定書の締結以来、宮城大学移動開放講座をはじめ、産業振興や行政改革の取り組みへの支援、学生の実習受け入れなどの事業を展開しています。

学校給食では、三本木地域に大崎南学校給食センターが整備され、古川地域も含めた学校に提供されるようになりました。  
地産地消と食育の推進のために、食育推進ネットワーク会議を開催するなどして、交流や情報共有を通して、消費者と生産者を結びつける仕組み



子育てわくわくランド

り農産物PR推進事業の取り組みや、エコファーマー等の環境保全型農業の推進を図るとともに、付加価値の高い農畜産物の大崎ブランドとしての確立に向けた取り組みにより、農産物の地産地消が拡大しています。  
商工業では、自動車関連企業の宮城県進出が急ピッチで進む中で、産業推進機構「未来産業創造おさき」の設立が今年度中に予定され、農業、商業、工業の枠を越えた新たな産業や事業の創設が期待されます。

児童保育は八カ所増設して十二カ所になり、平成二十一年度から午後七時まで保育時間を延長し、子育て世代の応援をしています。平成二十年に市内二番目の幼保一元化施設「ひまわり園」が開園。本年四月には三番目となる「なかよし園」が開設予定で、幼保一元化施設の整備が進められています。  
さらに、待機児童ゼロを目指し、民間事業者等による保育所整備を進めてきたことで、本年四月には、保育所の定員を合併時より五百人増加することができました。  
大崎市健康増進計画「大崎生き生き健康プラン」が平成二十一年に策定されました。自らのアクションプラン(行動計画)を示して、それに向かって具体的に行動する市民参加による健康づくりの取り組みが始まっています。

**検証5**  
地域で支え合い健康で元気なまちづくり  
新たなサービスを展開  
市の中心部に子育て支援施設「子育てわくわくランド」が開設し、一時預かりなどのサービスの提供を始めました。

いる黒船が来航、異国の強大な力を目の当たりにし、日本の大改革という大望にその身を投じていくことになりました。  
龍馬が江戸で修得した北辰一刀流、玄武館を創設したのが剣豪千葉周作であり、その千葉周作が江戸に上るまでの五歳から十年間、少年時代を過ごし、剣の道を修行したのが古川地域荒谷です。ここが北辰一刀流の素地を生んだ地であるという史実は、荒谷に鎮座する斗笠稲荷神社や一族の墓がある隣の光明寺を訪れるとよくわかります。また、司馬遼太郎著、千葉周作の伝記「北斗の人」に数々の逸話が記載されており、一世紀半の時を経て、坂本龍馬と千葉周作、大崎の縁に触れて「平成の龍馬出でよ!」の気概で、未来への道筋を切り開いてまいります。

市長コラム 天・地・人



坂本龍馬と大崎の縁

NHK大河ドラマ「龍馬伝」が話題を呼んでいます。先の展望が見えない「平成維新」と称される乱世の昨今、再び脚光を浴びる幕末の志士 坂本龍馬。  
今から百四十年ほど前の近代日本の夜明けと言われた大改革「明治維新」。この原動力の中心人物坂本龍馬は、土佐藩を脱藩してから、わずか五年の間に薩長同盟、大政奉還を実現させ、世界に例がない無血革命をほぼ成し遂げ、三十三歳の若さで逝った稀代の英雄です。  
龍馬は、自らの剣を磨くべく十九歳の時、故郷土佐を離れ、江戸の北辰一刀流玄武館千葉周作の弟である京橋桶町に道場を構える千葉定吉に弟子入りし、北辰一刀流の免許皆伝を伝授されています。  
龍馬が江戸で剣術を修行していた時、ペリー提督率

大崎市長 伊藤 康志